

ちよひぶつご話

第一四一号 八百回忌の団参

今年、当山では法然上人様の八百年御忌記念行事を無難に遂行でき仕合せでございます。浄土宗では二月二十七日 旧暦 一月二十五日（法然房源空上人正当八百年大遠忌を迎えました。当山では法要を二月二十日より三月五日まで、二週間に亘り勤めました。御本尊 一光三尊善光寺如来様と法然上人様と参加されました檀信徒お一人お一人様が善の綱で結ばれ念佛三昧の勤行を修める事ができました。参加されました善入院檀信徒一同は念仏衆生撰取不者（一心に念仏を称えた者は必ず救ってやる）の一文をもつて命終る時 一光三尊善光寺如来様の出迎えを受け往生極楽への導きが頂けます事確実成り。その証は結縁されました方々に各自が使ってみえる念珠に善の綱で叶結にしてお渡しし参加されました証と致しました。

法要を勤めた一週間後には東北関東大震災が起き、「一寸先は闇」とは全く良く申したものです。毎年、当山では年次計画が発表されており、その行事予定に従い行事が無事に遂行されますのも檀信徒お一人お一人様の深い信仰と御佛の御蔭であると信じております。御案内の通り、この十月には地震の為に延びておりました総本山知恩院での八百回忌法要が厳修されました。当山も岡崎組主催の団参に岡崎組の一山として参加致しました。参加協力をして下さいました方々には感謝し御礼申し上げます。又、当山独自の団参は予定通り挙行させて頂けました。法然上人様がお生まれに成られた、岡山県久米郡の誕生寺様に詣で法然上人様の木像を常には秘佛ですが特別に開帳して下さいました。この木像は上人四十三歳浄土開宗当時の御姿という御話を伺い、御尊顔の拝悦感激一入でございました。法然様は九歳の時に此の地で父親が夜討にあい殺され、父の遺言で仏門に入られ一生を遺言通りに過ごされました。この浄土宗根源の地を踏む御縁を頂けた事、真に感無量です。又、幼年期から少年期にかけて勉学に勤しみ過ぎられました奈義山の菩提寺様では樹齢九百年の銀杏の古木があり、木の精霊に読経し垂れ下がっている乳を全員で撫でその霊気を頂きました。数か所巡り、最後に比叡山の黒谷清龍寺に詣でました。この場所で法然上人様は父 時国の遺言「解決の為に、一切経を度々御読みになられ父からの難問を解き明かされました。上人の魂が残り、現在でも八百五十年前の霊気を感じ取る事ができました。

法然上人様と共に申す念仏が一向念仏がこの身この口から出てくる様に時を重ねて行かなくては成らないと思います。そして今日以後住職観空も檀信徒の方々に授ける授与十念が法然上人様に同席同称して頂ける様に精進努力しなくてはと肝に命じております。

二十三年十一月一日

善壽男善入院油掛地藏尊